

災間を 生きる都市

抗いがたい外力を前に、被災し、対応し、備え、（忘れ、）被災する。この繰り返しの間を、人は都市と生きているのではないのでしょうか。災害の激甚化、常襲化が叫ばれて久しくあります。福島では東日本大地震からの復興が続けられていますが、同時に、東南海トラフ地震に対する事前復興に取り組んでいる太平洋沿岸の地域があります。また、海と山に囲まれた自然豊かな日本において、豪雨災害への不安を感じない年はありません。国外に目を向けますと、ウクライナ侵攻、シリア内戦など、戦争は現代においても各地で発生し、難民はこの10年間、増え続けています。それぞれの地域特有の自然・歴史があり、災間があるといえます。

災間において、果たして空間は、都市は、何をできるのでしょうか。土木、建築、都市、演劇、計算、模型、映像を駆使した都市の設計提案をお待ちしています。

復興デザイン会議記念講演会では、コンペ解題として、人口減少が進むさまざまな地域と都市で、新たな空間づくりの実践と理論化に挑戦する内藤廣と羽藤英二が討論します。

●審査委員

委員長 内藤廣（建築） 副委員長 宮城俊作（ランドスケープ）

高橋 一平（建築） 星野 裕司（土木） 乾 久美子（建築）

栃澤 麻利（建築） 羽藤 英二（都市）

●応募資格 30歳以下（2022年3月31日時点）の学生・社会人（個人・グループは問わない）

●賞 最優秀賞1点 優秀賞2点程度

●提出物 ポスター2枚（A3版横使い） ※PDF形式で提出してください

●スケジュール

- ・2022年9月30日 応募締め切り
- ・2022年10月末頃 一次審査結果発表
- ・2022年11月26日 二次審査（公開）

●コンペ問合せ先/送付先 益子智之（早稲田大学）[mashiko0511\[at\]gmail.com](mailto:mashiko0511@gmail.com)

●主催：復興デザイン会議

復興デザイン会議：土木・建築をはじめとするさまざまな分野の全国各地の専門家によって構成される専門家会議。2022年度の全国大会では、福島復興と事前復興の最前線を議論するとともに、復興デザイン各賞を発表します。ふるってご参加ください。